
SAO magicswordmanstory

言葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SAO magicswordman story

【NZード】

NO632U

【作者名】

言葉

【あらすじ】

いつの間にか死んでしまって、何も知られず、しかしすべてを悟った青年は、新たな人生を歩むことになる。

設定 改 2011年7月31日（前書き）

書き忘れてたorz
つてことで設定集です。

（ネタバレ有）

あと、プロローグのほう改変したんで見てください。
改変した場所は後書きに書いてます。

それでわざーぞ

オリ主（名前は後で明かすけどみんな大体わかつてるでしょ） 男

- 13歳 転生者
- ・めっちゃ頭いい
- ・コンピュータの扱いが反則的
- ・スキルは索敵・隠蔽・戦闘回復・片手直剣・ナイフ・投擲・武器
防御・体術・軽業・双剣・魔剣
- ・LV111（原作開始時）
- ・桐ヶ谷家の近所の子供、キリトとも知り合い
- ・

能力

- ・不老と幸運
 - ・赤色と橙色と青色の能力
 - ・戯言遣いの能力
 - ・ユニークスキル『魔剣』
- 体：SS+ 頭：SS+ 感：SS+ 運：EX

コルト 男（の娘） 15歳

- ・ネカマ
- ・しかし容姿も普通に女
- ・スキルは索敵・隠蔽・戦闘回復・投擲・武器防御・体術・タガー・
- 小剣・鑑定・銃剣
- ・LV85（原作開始時）
- ・

能力

特になし

体：A 頭：A 感：A 運：B

ジユノ女15歳

· 冷静沈着

・スキルは索敵・隠蔽・戦闘回復・投擲・武器防御・体術・両手直

劍・刀・料理・虛刀

• L V 89 (原作開始時)

1

能力

體 : B
頭 : S
感 : S
運 : A

その他

ギルド『蒼き林檎』

グリーンアップル

オリ主とハルトとジルバ、書類上(?)ではキリヤも所属
小さいがKOBや青竜連合なみに有名

カツプリングは

・キリトとアスナ

・ クラインとリズベット

・コルトとシリカ

やんないかもしんね。

また後で追加するかも

設定 改 2011年7月31日（後書き）

オリキャラの一人にもユニークスキルを加えました。
三話目書いつてけどめっちゃやりにくい
遅くなるかも。

プロローグ（前書き）

新作イエーイ！

頑張つて書きました。

それでわざーぞ

プロローグ

「くあ wせd りf t あよふじこーあ…@…」「」

「あ、失礼、焦りました。」

「いや、わざとだ。」

「集めました…ってマジでどこだこー…?」

「わざとじやない、つてか字違う！確かに似てるけど。」

「いや、そのネタに乗ってる場合じやないんだよ！しかも、会話じや俺のボケわからぬはずだし…って…え、誰あんた？」「

「あたしは、神様だよ。いや正確には代理人なんだけどね？」「

「だから！ボケに付き合つてる暇はないんだよ。それになんて疑問形なんだよ…あれ？」「

そこで俺は、初めて気付いた

俺の話している方向、そこには誰もいないことに

「何で声だけ聞こえるんだよ…。」「

それに俺の周りが真っ白で何もないことに

あれ？これつて一次創作みたいなつ！

「いやー、こっちにもちょっと都合があつてね今回は姿を見せるわけにはいかないんだよ。」「

「どうしてさ？」「

「君つてさー頭いいじゃん。」

そうなのだ、自分で言つのもなんだが俺はかなり頭がいい例を挙げるなら…

3歳の時、すでに高校レベルの問題を解き始める

5歳の時、飛び級でアメリカのハーバード大学卒業

6歳の時、数学の難問であるフェルマーの最終定理を解き始める

7歳の時、解き終わる

なんて感じ

この後は特に何もやつてなかつたけど

「それが一番得意かつて聞かれたら、やっぱ数学かな
いや、だから？」

「「」ちもいりごり感づかれるとまずいんですよ。」

「ああ、そうゆうことね。」

つまりあんたのミスで死んじまつたわけだな
多分、50人目あたりかな
なんとなくつーか、普通神様はこんなミスしないと思つから代行し
て仕事やつてるやつかなんかだろ
で、「」いつはよくミスする奴だな
「そうゆうことです。」

「で、どこの世界に転生させるの？」

「え・・・・なんでわかんの？」

「」の感じは一次創作以外の何ものでもないでしょ？」

簡単な事だろ

「じゃ、どこに行きたいですか？」

「ソード・アート・オンラインがいいかな。」

「一応、理由聞いておきましょうか。」

「まず命の危険が少ないだろ、もりつ能力が少なくて対応できる
レベルだからってとこかな。」

「はあ～、まあいいです。次にどんな能力がほしいですか？ちなみに
に不老と幸運はデフォルトです。」

「制限は？」

「無いですよ。」

「じゃあ、戯言の赤き征裁と橙なる種と青色サヴァンの能力がいい
かな。あ、ついでにいーちゃんの戯言も。最後にオリジナルユニー
クスキルで『魔剣』能力は斬撃を飛ばせることだ、簡単に言つと
ウル・イーターのクロナの奴ね。」

「そうゆう割には結構チートですね。」

「いいんじょ？別に。」

「さて、あんまり話してると疲れるんでもう送りますよ。」

「もうちょっと、話してたいなー。」

「ダメですよ。もう限界です。」

「まあ、いいよ。」

「それでは、あなたの新たな人生に幸が多からんことを。」

「おっと、あぶねー。」

「テンプレ的に俺の真下に穴があいた

「早く逝ってくださいよ。」

「字がちげーよ。」

「とにかく行つてください！」

「はいはい、いってきまーすつと。」

プロローグ（後書き）

一次創作はとりあえず二つだけです。

7月21日改変（ネタとかもらった能力とか）

魔剣の尊（前書き）

SAOの題名つけにくらいな。

今回は次の話へのつなぎみたいなもんです。
過去話なんかは後からやります。

それでわざーぞ

魔剣の噂

「ねえ、キリトくん。」

アスナが俺に問いかける

二十一層の小さなログハウスで暮らし始めてもう五日だ

最近ではこの生活が幸せすぎて現実に変える気持ちも薄れている気もする

いや駄目だなこんなじや

必ずアスナを現実世界に返すって約束したのに

「ねえ、キリトくん聞いてるの？」

「ああ、聞いてるよ、で何？」

「魔剣の噂つて知ってる？」

「魔剣？」

このSAOの中には魔法とゆう物が存在しない
それに代わるソードスキルがある

簡単に言うと必殺技みたいなものだが
しかし魔剣とゆう物はなんなんだろう？

「そう、魔剣。」

「なに？ それってモンスターードロップで出る半端なく強い剣の俗称
のことを言つてるわけじゃないよな？ アイテムか？ 二つ名かなんか
か？」

「まあ、二つ名でもあるらしいんだけど、どうやら三人目のユニー
クスキルらしいよ。」

三人目……ヒースクリフの神聖剣、俺の一刀流に次ぐ三人目のユニー
クスキル魔剣か

ユニークスキルそれは一人にしか与えられないスキルでその出現条件はランダムではないかと言われるほど出現させるのは困難である
しかし、それを補つて余りあるほどの能力を有している
「それはどんなスキルなんだ？」

「それが……わかんないらしーのよ。」

「はあ……誰から聞いたんだよ?」

「リズベットからだけど、それが噂だけらしーのよ。」

……噂かよ

「誰も姿を見たことがないらしんだけどなぜかその噂だけが広まつてるんだ。」

「でも、気になるな。」

「そうでしょ? そういうと思つたわ。」

「どうせ暇だし、探してみよつぜー!」

強い奴には興味がある

今のところ負けたことがあるのはヒースクリフだけだ
その彼ももしかしたらそれに匹敵するかもしれない

「そうね、でもどうやつて探すのよ?」

「そ、それはいろいろ頑張つて……」

「考えてなかつたんでしょう、とりあえず情報屋にでも行つてみる?」

「うひつて、俺らは「魔剣」を探し始めた

コグベッシュ（論議）

わすれてた。〇ー
遅くなつてすみません。

もつ一つの小説のほりを優先してやつてゐるの遅くなつて」とが々々
あると思つてます

それでわざーぞ

リズベットと

端的に言つて無駄足だった
でも一つだけわかつたのは彼がソロでベータテスト出身つまりビーダーだとゆうことだけ
と、ゆうことは俺が会つたことがあるかもしれない
「無駄足だったね…。」

「ああ、そうだな。」

この場合、情報屋より信憑性はないが噂のほうが情報が多かつたりする

「これからどうする?」

「そうだな…とつあえずリズベットから話を聞いてみつか。」

「リズの話は信用できないと想つけど。」

「情報がないよりましだろ。」

「そうだね、行ってみようか。」

はあ~、結局見つからぬーのかな

よく考えつと、どつから魔剣の噂は出てきてるんだ

誰も見たことがないはずなのに『魔剣』のユニークスキル名がわかるんだ?

そちらへんもリズベットに聞くしかないか

「リズ、居るー?」

「はいはーい、居ますよ、いつかいつか。」

「今日はクライン居ないんだな。」

「いやいや、みんなあんた等みたいにラブリーブでべつたりつてやうわけじゃないし。」

「そんなこと言つながら、結婚してやせに。」

結婚、SAOの中ではかなり珍しことだ

結婚をするとアイテムお金などがすべて共同に使える
詐欺などの犯罪が日常茶飯事とは言わなくともかなり多いこSAOで

そんな」としたら致命的である

「そ、それはそうだけど。」

「逆に、結婚してるくせにこんな感じのほうが珍しいこと悪いんだ。」

「べ、別にいいじゃない私たちは私たちよ…。」

「そんな事より、今日は何の用？」

「んーとね、魔剣の事について詳しく聞きたくて。」

「魔剣で…もしかして戦う気なのキリト？」

「そのつもりだけど…。」

「はー、あんたも戦闘中毒ね。」

「いいから教えろって。」

「まあいいわ、そうねどこから話したものか…。」

「なんだよ、そんなにいろんな噂があるのか？」

「逆よ、少なすぎて有力な情報がないのよ、でも確かに言える」と
は男で茶色のローブを深くかぶつて綺麗な紫色の剣を持つてゐる
てことだけね、それすらもしかしたら違うかもしれないけど。」

「誰か見たやつがいるのか？」

「それはいるにはいるらしんだけど誰かわかんないし、この噂自体
デマじやないかと言う人たちもいるしらしこし。」

「結局わかったのは男でビータ である」とと容姿ぐらいか。」

「これからどうするの?キリトくん。」

「さてどうしようか…。」

「Hシユロンに聞いてみたら?」

「Hシユロンか…あいつどこにいるかわからんねーんだよな。」

確かに、Hシユロンに会えば『魔剣』の正体がわかるかもしれない
エシユロン…『ファルコン』『イーグル』『ホーク』『歩く図書館
『歩く情報』『オールソード』

『自由気まま フリーダム』『正体不明 カウンターストップ』

『死線の蒼 デットブルー』

『蒼い影 ブルーシャドー』 etc..

無数の一つ名を持つ彼は情報屋として有名だしかし彼に会つたという者は少ない

決まった居住区を持たず、顔もよく知られていない彼に会つのはほぼ不可能である

だが、俺のフレンドリストにはエシュロンの名が載っている

「あんた、フレンド登録してんだからフレンド追跡で探しなさいよ。

フレンド登録をしてるとマップでフレンド追跡とこいつのものができます
フレンド追跡をすればその対象の元までたどり着ける

はずなのだが……

「どうやってか知らねーけど、あいつ追跡できないんだよ。」

「どうゆうことよそれ。」（リズ

「なにそれ！」（アスナ

「言葉のとうりだよ、追跡できないんだよ。」

「じゃあ、探すのは無理かもね。」

「うーん、とりあえず『魔剣』を探すのは無理に近いからエシュロン探すか。」

「そうしようか。」

そういうながら俺はエシュロンと初めて会つたときを思い出していた

コグベシトと（後書き）

感想お願いします。

報告（前書き）

かなり遅くなりましたね。
すいません。

今回は私からの報告です。

いきなりですが、この作品を消すかもしないです

二作品同時進行とか僕のスキルじゃ無理でした

とりあえず書をだめして新しく書いりたいと思います

その過程でもしかしたらここの方は消すかもです

お気に入りにしていてくれた方、そうじやなくとも更新を楽しみにしていてくれた方

本当に申し訳ありません

設定ほとんどそのままやりますので次回作に期待してください

ああ、でも「」を改訂するだけで終わる可能性もあります

以下文字数稼ぎ

報告の続き

結局、いつか消すことにしました。

今月中には消します。

確定事項ではあつませんので、もしかしたらな可能性もありますが
ほぼ確実にいつかを消しますので。

一応書き直そつと思つたのにの内容を一話分でそのままページにして
いる小説を投稿します。

題名は（仮）ですがSAO一次創作（仮）です。

小説のURL　http://nocode.systu.c
om/~2205x/

続きを期待されてた方は本当に申し訳ありません。

特に友人のT、マジコメンー結局いつか消しちゃつた。

むいりつでもかなりの間放置が続くと思われますが、ご容赦ください。

本当に申し訳ありません（――）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0632u/>

SAO magicswordmanstory

2011年10月7日11時31分発行